

## 2021 年度第 7 回日本地球化学会理事会 議事録

日時 2022 年 6 月 1 日(水)18:00–20:50  
場所 zoom による web 開催  
<https://us02web.zoom.us/j/83319809312?pwd=xVIw3naYjlnBbQgBmu9UgxvB2UciON.1>  
出席者 南 雅代, 小畑 元, 鍵 裕之, 浅原 良浩, 飯塚 毅, 石川 剛志, 井尻 暁, 大野 剛,  
黒田 潤一郎, 下田 玄, 角野 浩史, 瀬戸 繭美, 高橋 嘉夫, 谷本 浩志, 張 勁,  
中川 書子, 長島 佳菜, 福山 繭子, 古川 善博, 丸岡 照幸, 山口 保彦, 若木 重行,  
川幡 穂高(監事), 山本 鋼志(監事)  
欠席者 上野 雄一郎  
オブザーバ 鈴木 勝彦, 田中 万也

### 1. 審議事項

#### 1.1 2022 年学会賞等受賞者選考

学会賞等受賞者選考委員会の石川委員長より, 2022 年度の柴田賞, 学会賞, 奨励賞, 功労賞への応募がそれぞれ 0 件, 1 件, 4 件, 0 件であったとの報告があり, 選考委員会での選考プロセスについて説明があった. 学会賞候補者はなく, 奨励賞候補者として伊左治雄太会員, 福田航平会員, 眞中卓也会員が推薦され, それぞれの会員について推薦理由の説明があった. 審議の結果, 3 名への授賞が承認された. 奨励賞受賞者には, 受賞の連絡の際に JAICI 賞についても連絡をし, 受諾の確認後に JAICI に推薦することを確認した.

#### 1.2 2022 年年会開催案

2022 年年会 LOC 委員長の石川理事より, 年会の開催案について説明があった.

- 2022 年度年會を, 対面/オンラインのハイブリッドで開催する. 現地開催会場は高知大学朝倉キャンパス共通教育棟とする.
- ポスター発表はオンラインのみとする.
- 口頭発表, ポスター発表ともに, 現地開催期間の前後トータル1週間(9/5(月)~9/12(月))にオンライン上での発表討論期間を設ける.
- 現地開催期間の 2 日目 9/8(木)の午後に総会, 授賞式, 受賞講演を行う.
- 受賞講演の後に, 新しい試みとして現地での交流会(飲食無し)を開催する.
- 閉会式は現地開催期間終了1週間後の 9/16(金)にオンラインで学生発表賞表彰をメインとして行う.
- 講演申込, 参加申込, 発表資料の形態・アップロード, 発表サイト構成・運営, オンライン発表討論の方法はすべて 2021 年弘前大会のものを踏襲する.
- 参加費は, 一般会員 4,000 円, 一般非会員 8,000 円, 学生会員 1,000 円, 学生非会員 2,000 円(ただし, 聴講のみの学部生については会員, 非会員ともに無料)とし, 現地参加の場合もオンライン参加の場合も同一とする.
- 新型コロナ感染拡大等への対応として, 現地開催の可否は高知大学が定める基準に基づき決定すること, 現地会場での対面開催が不可能になった場合は完全オンライン開催とすること, 完全オンライン開催になった場合も日程やプログラムの変更は行わないこと, とする.

質疑応答と意見交換の後に, 年会の開催案が承認された. 石川委員長から, 理事に年会開催への協力の要請がなされた.

### 1.3 2022年総会, 授賞式, 受賞講演の開催案

飯塚総務幹事と浅原庶務幹事より, 年会開催期間の2日目午後に総会, 授賞式, 受賞講演をハイブリッド方式で行うこと, 総会の開催通知はハガキによる全会員通知とし, 参加希望者のみに会議のURLとパスワードを通知すること, 総会のオンライン開催はWeb会議サービスで500名程度参加可能なプランを用意すること, 授賞式・受賞講演は年会参加者だけでなく会員・非会員ともに聴講できるようにすること, 受賞者には現地開催会場への参加を依頼するがオンラインでの参加にも対応することが提案され, 承認された。

### 1.4 2022年年会の特別セッション, 学生発表賞, 年会関係の支出

福山企画幹事より, 2022年年会の3つの特別セッション案, 学生発表賞のカテゴリーと審査方法が提案され, 承認された。また, 年会の講演申込・参加申込のシステムと講演要旨のJ-STAGE対応に関する支出予定額(見積書)が提示され, 承認された。

### 1.5 2022年ショートコース

福山企画幹事より, 2022年のショートコースの実施概要が提示された。2022年7月31日に4名の講師を招いてオンラインで開催すること, オンライン交流会を実施すること, 参加費は会員無料, 非会員1,000円とすること, 講師への謝金は7,000円/人, オンライン交流会のためのoVice使用料11,000円の支出予定, が提案され, 承認された。なお, oVice使用料は学会寄附金(若手支援分)を活用することを確認した。

### 1.6 2023年年会日程

2023年年会(東京海洋大学)の開催日程を2023年9月21日~23日とすること(但し, 大学からの正式な開催承認は2023年4月)が提案され, 承認された。

### 1.7 学会賞授賞規程の改正案

南会長より, Geochemical Journal (GJ) 学生論文賞の新設に関わる学会賞授賞規程の改正案が提示された。GJ学生論文賞は, 会員である筆頭著者が在学中または卒業・修了後1年以内, もしくは学籍を外れてから1年以内にGJに投稿した論文を対象とし, GJに掲載された優れた論文の筆頭著者に授与すること, 選考は別に定めるGeochemical Journal学生論文賞細則により行うことが規程に追加された。審議の結果, 規程の改正が承認された。

### 1.8 Geochemical Journal 学生論文賞細則案

南会長より, GJ学生論文賞の新設に関わる学会賞授賞規程の改正に伴い, GJ学生論文賞の選考に関わる細則案が提示され, 審議の結果, 承認された。

### 1.9 GJ賞, GJ学生論文賞, 年会の学生発表賞の受賞者のGJのAPC割引

丸岡出版幹事より, GJ賞, GJ学生論文賞, 年会学生発表賞の各賞におけるGJ APC(Article Processing Charge)期間限定無料の副賞についての申し合わせが提案された。学生会員のGJ APC無料期間が2023年末まで行われていることを考慮した副賞のAPC無料期間の一部延長と, 副賞の対象者についての修正を行うことを確認し, 承認された。

### 1.10 役員候補者選挙規程の改正案

小畑将来計画委員長より, 前回の役員選挙において表出した課題, すなわち再任に関する例外規定, 選挙運動(所信表明), 選挙実施時期の3点について説明があり, 規程の改正案が提示され, 意

見交換を行った。将来計画委員会で引き続き検討し、8月または9月の理事会で規程改正を行い、総会で報告することを確認した。

#### 1.11 会誌およびその他の出版物に関する規程の改正案

浅原庶務幹事より、Geochemical Journal および地球化学の編集委員長、副編集委員長、編集委員の選出方法、任期に関する規定を会誌およびその他の出版物に関する規程に追加する改正案が提案された。審議の結果、規程の改正の必要性は確認されたが、手続きの煩雑化などの問題点が指摘され、次回理事会までに改正案の見直しを行うことを確認した。

#### 1.12 中間会計報告

黒田会計幹事より、2021年度中間会計報告があった。昨年度の会計報告と異なる点として、2022年1月のGeochemical Journal リニューアルに伴うAPC収入、GJ制作費用の支出について説明があった。2021年度決算はほぼ予算どおりの見込みであることが説明され、中間会計報告は承認された。

#### 1.13 年会 LOC 準備金

2022年年会LOCの準備金として50万円を学会会計から支出することが提案され、承認された。近日中に、新たに開設した年会用ゆうちょ口座の通帳に50万円を入金して、年会LOCに渡すことが確認された。

#### 1.14 2022年度の国際文献との契約

浅原庶務幹事より、国際文献社より提示された2022年度(2022年8月1日～2023年7月31日)の契約書について説明があった。2021年度の契約書からの変更点は、GJのAPC徴収業務が覚書に追加されたこと、契約に定めのない作業費が1,800円/円から別途見積に変更されたことであり、これ以外は2021年度の契約内容からの実質的な変更はないことが説明され、審議の結果、承認された。

#### 1.15 IGC2024への対応

南会長より、日本地球化学会がIGC2024(韓国, 釜山)の協力団体となっていることについて、その経緯と懸念事項について説明があった。また、川幡監事より本件に関する情報提供があった。今後、日本地質学会と日本学術会議と連携しながら対応することが提案され、代表理事にその対応を一任することが承認された。また、その対応について理事会で報告することを確認した。

## 2. 報告事項

### 2.1 会長報告

南会長より、次の5件の報告があった。

- JpGU2022での大型研究計画の公開ヒアリングと今後の予定について説明があった。本会も支援する寺田健太郎会員の計画について、南会長と角野広報幹事より説明があった。
- JpGUのダイバーシティ推進委員会委員(日本地球化学会選出)が津野宏会員から井尻暁会員(現理事)に交代したことが報告された。任期は2022年6月1日-2024年5月31日の2年間である。
- Goldschmidt Conferenceのアジア-太平洋地域での開催時期について、前GS会長からのメールが紹介され、2028年以降となる見通しであることが報告された。
- 2023年に日本地球化学会70周年の記念事業を行うため、検討を始めることが報告された。具体的には、2023年年会での市民公開講座の実施、「地球化学」誌での創立70周年記念号などを検討する。

- ・ 理事会の運営について、平日昼間での理事会開催、理事会の会議時間や開催頻度の見直し、などについて今後検討を進めることを確認した。

## 2.2 GJ 編集委員長報告

鈴木 GJ 編集委員長より、GJ の編集状況、発行状況、GJ リニューアル後の投稿数減少への対策、著作権使用許可(3 件)、について報告があった。2020 年、2021 年の閲覧制限付論文の取り扱いについて検討中であること、GJ のプレゼンス向上を目指して、著名な研究者へのレビュー論文執筆の依頼や特集号の立ち上げを進めていることが説明された。また、2022 年 1 月の科研費出版助成の中間ヒアリングの審査結果は、減額なしの助成継続となったことが報告された。

## 2.3 地球化学編委員集長報告

田中地球化学編集委員長より、資料に基づき、「地球化学」の編集状況、企画中の特集、今後の発行予定について報告があった。また、この数年の地球化学の出版動向に関する編集委員会での検討結果の報告があった。近年の投稿数減少の原因の分析、投稿数増加のため方策の検討について紹介があり、理事へのアイデア募集の呼びかけを行った。

## 2.4 国際幹事報告

谷本国際幹事より、資料に基づき次の 3 件の報告があった。

- ・ 2022 年 5 月 28 日開催の 1st China-Japan Youth Joint Forum on Geochemistry(第 1 回地球化学日中若手フォーラム)について報告があった。日本側は服部祥平会員(南京大)が中心となって運営され、約 80 名の参加があった。国際ジャーナルの出版状況、地球環境化学、高温高压地球化学の 3 つのテーマについて、日本側から 4 名、中国側から 6 名のスピーカーが講演した。
- ・ 中韓台 MOU の相手方の国際担当に新リーダーシップ(会長、副会長、国際幹事)の挨拶レターを送ることが報告された。
- ・ 今後の国際交流として、高知での年会において、総会での中・韓・台からのライブでの挨拶などを検討する。

## 2.5 広報幹事報告

角野広報幹事より、資料に基づき、広報委員会の活動報告として、メーリングリストへの代理送信、ウェブサイト更新、ニュース発行(3/25 発行 248 号、6/25 発行 249 号)、JpGU ブースの活動、Goldschmidt 2022 のブース活動予定について報告があった。また、2022 年年会での広報活動、パンフレットの更新計画について検討中であることが報告された。

## 2.6 会員幹事報告

大野会員幹事より、資料に基づき 2022 年 1~4 月の会勢報告があった。

## 2.7 会計幹事報告

黒田会計幹事より、資料に基づき、2021 年年会の会計報告、年会 LOC の活動のための学会名義の口座開設、HP の寄附金申込書の改訂、2022 年度会費請求の際の寄附金の依頼について報告があった。なお、2021 年年会の収支は、収入 1,674,004 円、支出 1,217,384 円で、456,620 円の黒字であった。

## 2.8 庶務幹事報告

浅原庶務幹事より、資料に基づき、次の 6 件の報告があった。

- 男女共同参画学協会連絡会オブザーバー学会加入, 2022年2月25日正式承認.
- 後援・共催依頼
  - 第14回核融合エネルギー連合講演会／協賛  
2022年7月7-8日. オンライン開催.
  - 第65回粘土科学討論会／共催  
2022年9月7-8日. 島根大学 松江キャンパス.
- 地学オリンピックのつくば合宿参加者に配布するPRツールとして, 学会のクリアファイル70部を地学オリンピック事務局に送付(2022年3月).
- 2022年度第2回鳥居・井上基金助成の募集(2022年7月31日)の開始.
- JAICI(化学情報協会)賞に関する覚書 (2022年2月28日付).
- 今後の理事会の日程 : 8月20日頃および9月初め(いずれもオンライン開催を予定).